

株式会社トーア紡コーポレーション

# 令和7年12月期 決算説明資料

(令和7年1月1日～令和7年12月31日)

令和8年2月13日

暮らしと社会の明日を紡ぐ

**TOABO**

証券コード：3204

<https://www.toabo.co.jp/>

## 令和7年12月期決算 概要

売上高	17,471百万円	(前年同期比 $\triangle$ 5.1%) (計画対比 $\triangle$ 10.4%)
営業利益	570百万円	(前年同期比 $\triangle$ 17.1%) (計画対比 $\triangle$ 28.7%)
経常利益	731百万円	(前年同期比 $\triangle$ 14.7%) (計画対比 +0.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	656百万円	(前年同期比 $\triangle$ 17.9%) (計画対比 +31.3%)



中期経営計画（令和7年度～令和9年度）初年度となる当期は前年対比では減収減益、経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益は中期経営計画比で目標を達成

■ トーア紡グループの企業理念	P. 3
■ 令和7年12月期 通期業績	P. 4 ~ 14
■ 令和8年12月期 業績予想	P.15 ~ 17
■ 株主還元	P.18 ~ 19
■ トーア紡グループのSDGs	P.20 ~ 22
■ トピックス	P.23 ~ 24
■ 免責事項	P.25

## トア紡グループの企業理念

### 経営理念

#### 暮らしと社会の明日を紡ぐ

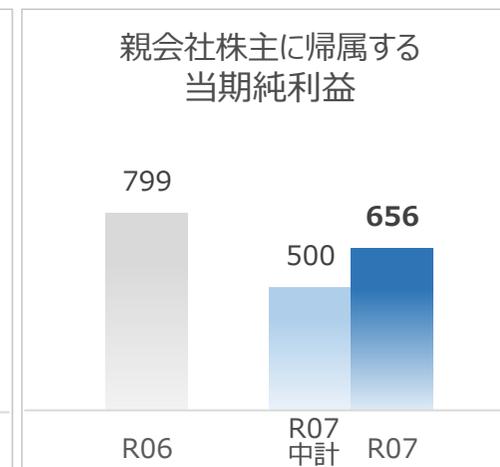
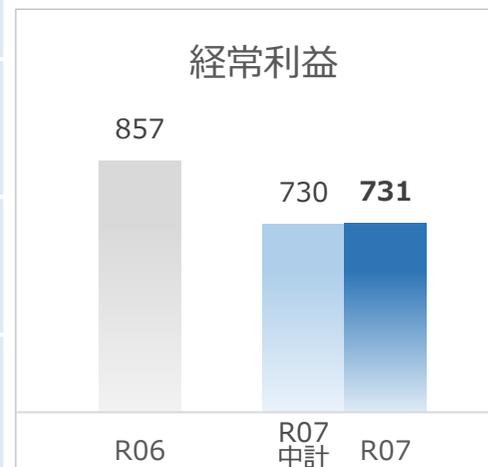
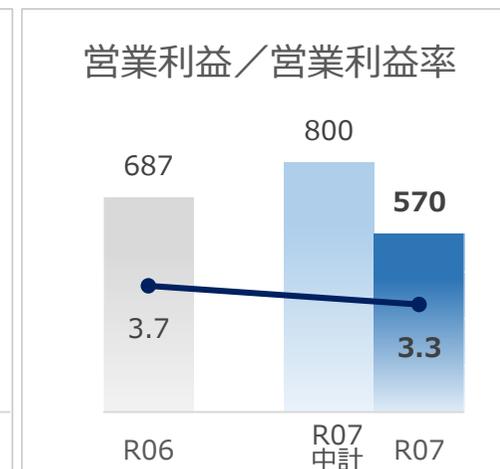
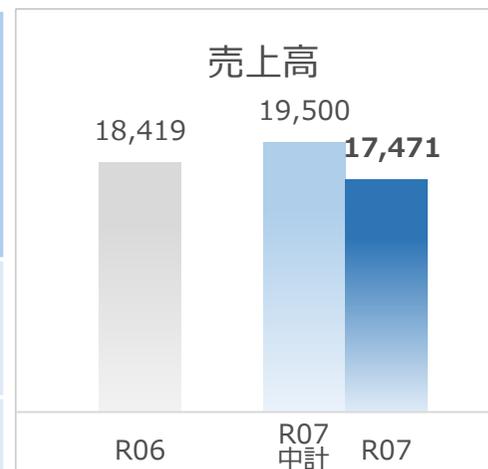
当社グループは創業者の訓示である『顧客満足』『重点主義』『公平性』を脈々と受け継ぎ、人々そして暮らしの「アメニティ＝快適・こちよさ」を追求する『暮らしと社会の明日を紡ぐ』企業グループであり続けます。

### 経営の基本方針

- ▶ トア紡クオリティの追求と新しい価値の創造、環境負荷の低減に積極的に取り組むことを通じて、モノづくりの伝統を未来へつなげる。
- ▶ 時代に必要とされる新たな価値を創造することで社会に貢献し、求められる企業集団として成長、発展し続ける。
- ▶ 個性の尊重と和を重んじ、公正・公平な機会と活力ある職場環境を構築し積極的に挑戦する企業集団であり続ける。

# 令和7年12月期 通期業績 連結決算概要

(金額：百万円)	実績		前年同期比 増減率	令和7年 中計 達成率
	令和6年 12月期	令和7年 12月期		
売上高	18,419	17,471	△5.1%	89.6%
営業利益	687	570	△17.1%	71.3%
営業利益率	3.7%	3.3%	△0.4pt	—
経常利益	857	731	△14.7%	100.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	799	656	△17.9%	131.3%



基幹5事業の一部が市場環境の変化の影響を受け、前年同期比で減収減益。経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益は、財務戦略等を着実に実施し中期経営計画比では目標を達成。

## 令和7年12月期 通期業績 セグメント別業績

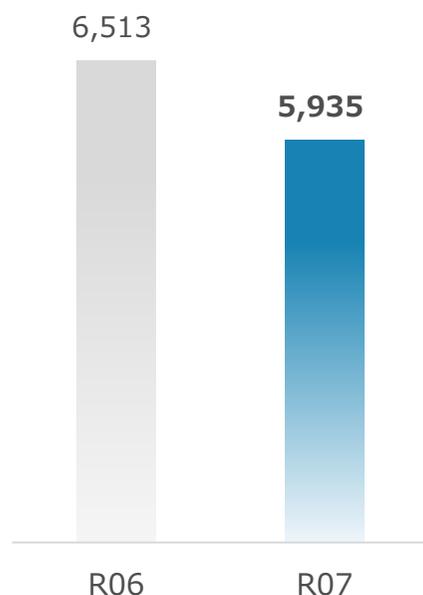
(単位：百万円)	実績						前年同期比 増減率		
	令和6年12月期			令和7年12月期					
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
衣料事業	6,513	315	4.8%	<b>5,935</b>	<b>257</b>	<b>4.3%</b>	△8.9%	△18.4%	△0.5pt
インテリア 産業資材事業	7,372	220	3.0%	<b>7,234</b>	<b>103</b>	<b>1.4%</b>	△1.9%	△53.2%	△1.6pt
エレクトロ ニクス事業	1,648	△5	—	<b>1,076</b>	△14	—	△34.7%	—	—
ファイン ケミカル事業	1,225	51	4.2%	<b>1,525</b>	<b>125</b>	<b>8.2%</b>	+24.5%	+142.5%	+4.0pt
不動産事業	915	529	57.8%	<b>896</b>	<b>512</b>	<b>57.2%</b>	△2.1%	△3.1%	△0.6pt
その他の事業	743	△83	—	<b>803</b>	△60	—	+8.0%	—	—
調整額 (販管費等)	—	△340	—	—	△354	—	—	—	—
合計	18,419	687	3.7%	<b>17,471</b>	<b>570</b>	<b>3.3%</b>	△5.1%	△17.1%	△0.4pt

# 令和7年12月期 通期業績 セグメント別概要 (単位：百万円)

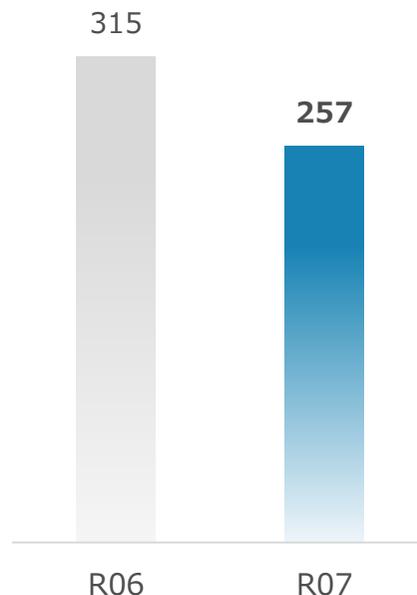
## 衣料事業

		(前年同期比)
売上高	5,935百万円	△8.9%
営業利益	257百万円	△18.4%
営業利益率	4.3%	△0.5pt

売上高



営業利益



## 業績概要

### 毛糸部門

- ▶ 残暑の影響でセーター用ニット糸の受注が不調で減収も肌着など軽衣料向けが健闘し、利益面は改善

### ユニフォーム部門

- ▶ スクール制服向け素材は、得意先アパレルの在庫調整の影響を受けて減収減益
- ▶ 官公庁制服向け素材は、調達量の増加と別注案件の獲得により増収増益
- ▶ 企業制服向け素材は、カタログ案件の不振により減収減益

### テキスタイル部門

- ▶ 受注数量は増加するも、素材の非ウール化により販売単価が下がった影響で減収、利益面は粗利率の改善により増益

### 毛糸製造販売を主体とする中国現地法人

- ▶ 中国国内販売は苦戦したが、日本向けの輸出が堅調で増収

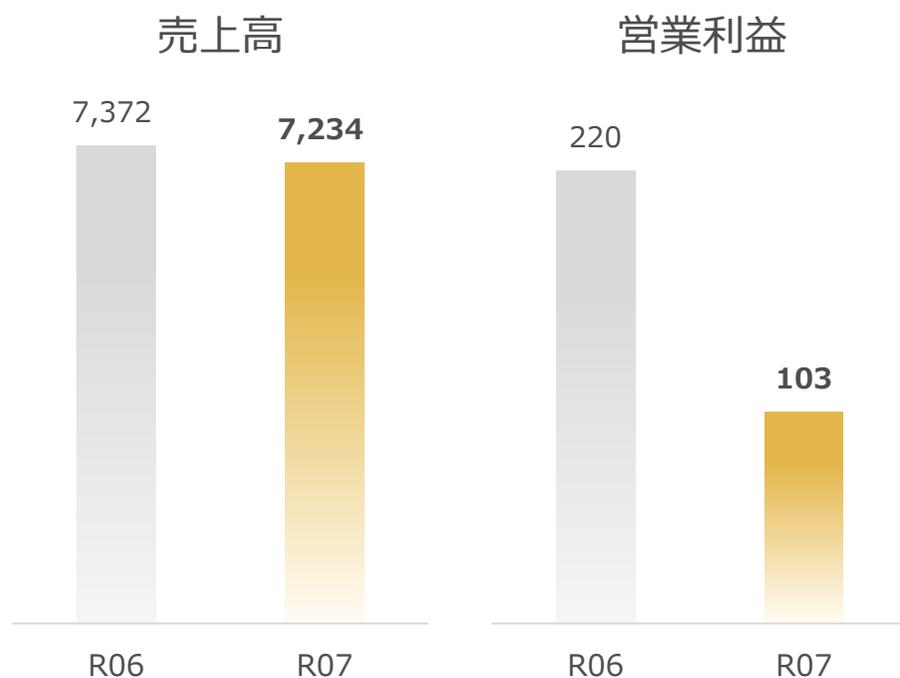
## 今後の取り組み

- ・人材の確保、設備投資も含め、国内生産体制の拡充に注力
- ・DXの更なる推進による業務効率の向上
- ・海外拠点という強みを最大限活かした開発、拡販、仕組みづくり

## 令和7年12月期 通期業績 セグメント別概要 (単位：百万円)

## インテリア産業資材事業

		(前年同期比)
売上高	7,234百万円	△1.9%
営業利益	103百万円	△53.2%
営業利益率	1.4%	△1.6pt



## 業績概要

## 自動車内装材部門

- ▶ 生産量が順調に推移し増収

## ポリプロファイバー部門

- ▶ 自動車内装材用原綿と展示会向けカーペット用原綿が健闘するも前年ほどの勢いには至らず減収

## カーペット部門

- ▶ OEMは需要が停滞し減収だが、一般資材は自動車関係とダストコントロールマット関係の生産量が回復し増収増益

## 特殊繊維部門

- ▶ 金属繊維は前年並みだが、カーボン繊維は作業員が定着せず生産効率が低下、コスト増となり減収減益

## 不織布部門

- ▶ 寝装関係の生産量は減少したが、土木、防草関係は順調に案件を獲得でき増収増益

## 自動車内装材製造販売の中国現地法人

- ▶ 日系自動車メーカーの減産、中国ローカルEV車メーカーからの受注も減少、近年の減収基調が継続
- ▶ 当期末に出資持分を現地企業へ譲渡

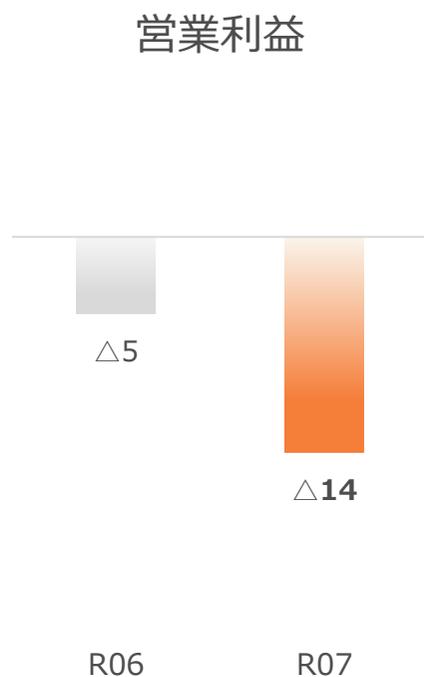
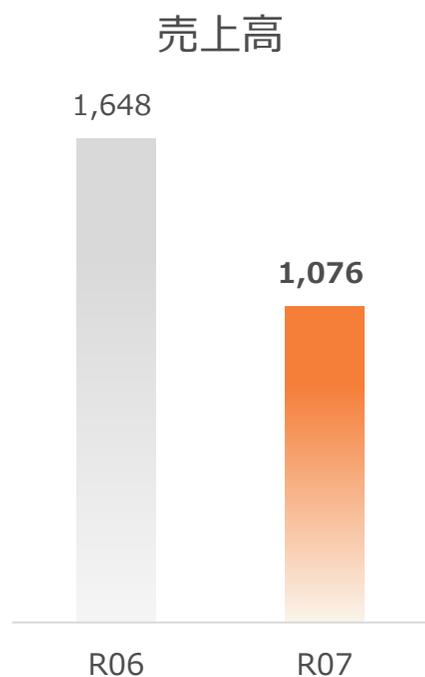
## 今後の取り組み

- ・ 国内事業に集中できる体制が整ったため、生産性向上と新規分野開拓への設備投資等をより推進し、効率的な稼働とコスト安定化を図る

# 令和7年12月期 通期業績 セグメント別概要 (単位：百万円)

## エレクトロニクス事業

売上高	1,076百万円	(前年同期比) △34.7%
営業損失	14百万円	前年同期は 営業損失5百万円
営業利益率	—	前年同期も利益なし

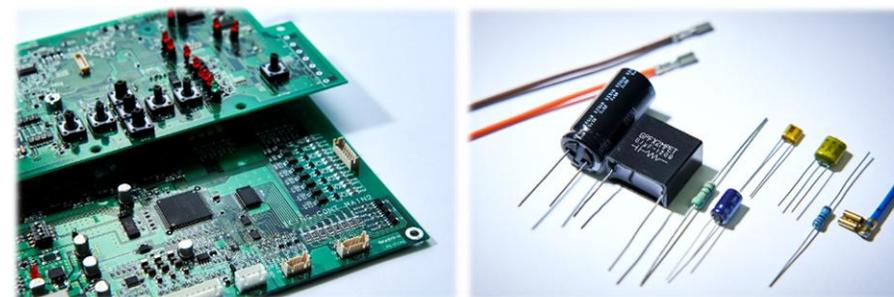


## 業績概要

- ▶ 主力の電動工具向けコントローラーは米国関税政策の影響を受け、中国で生産している米国向け分の受注が大幅に減少
- ▶ 電子デバイスの販売も、産業機器分野の市況低迷で減収

## 今後の取り組み

- ・ 既存の主力商品である中国生産の電動工具向けコントローラーの販売回復は見込めない前提でポートフォリオの見直しを早急を実施
- ・ 新規分野の偏光レンズフィルムや軟骨伝導集音器、デトネーション焼却炉を今後の柱にすべく、積極的な営業活動を展開、収益力の向上を目指す



# 令和7年12月期 通期業績 セグメント別概要 (単位：百万円)

ファインケミカル事業		
売上高	1,525百万円	(前年同期比) +24.5%
営業利益	125百万円	+142.5%
営業利益率	8.2%	+4.0pt

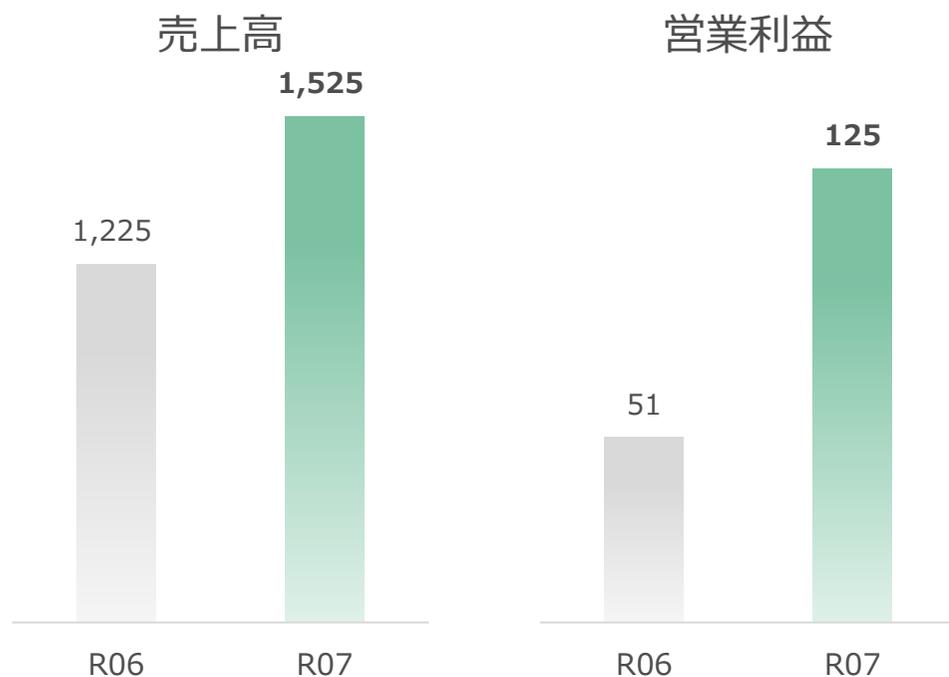
## 業績概要

- ▶ 電子材料分野は、半導体向け材料の旺盛な需要を受け増収
- ▶ 医薬分野は、ジェネリック向けが先発系AG品の攻勢を受け減収



## 今後の取り組み

- ・ 電子材料各市場や半導体プロセス材料の旺盛な需要に対応するため、生産基盤の強化と生産性向上に取り組む
- ・ 独自技術で開発した高機能性材料で新たな顧客価値を創造し、更なる成長軌道への体制強化を推進する



# 令和7年12月期 通期業績 セグメント別概要 (単位：百万円)

不動産事業		
売上高	896百万円	(前年同期比) △2.1%
営業利益	512百万円	△3.1%
営業利益率	57.2%	△0.6pt

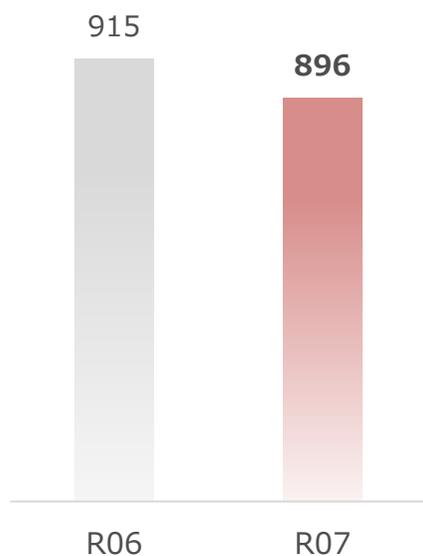
## 業績概要

- ▶ ショッピングセンターのテナントの一部が撤退した影響を受け減収減益

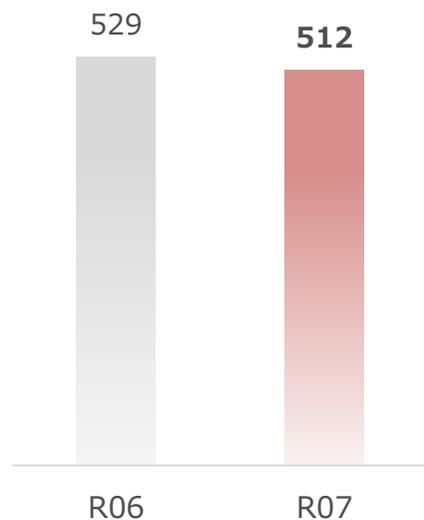
## 今後の取り組み

- ・ 商業施設、オフィスビル等の賃貸物件の付加価値を高め、稼働率の向上を図り、安定収益の確保に努める

売上高



営業利益



# 令和7年12月期 通期業績 セグメント別概要 (単位：百万円)

## その他の事業

売上高	803百万円	(前年同期比) +8.0%
営業損失	60百万円	前年同期は 営業損失83百万円
営業利益率	—	前年同期も利益なし

## 業績概要

### 自動車教習事業

- ▶ 営業活動強化により、順調に入校生を確保できたため増収

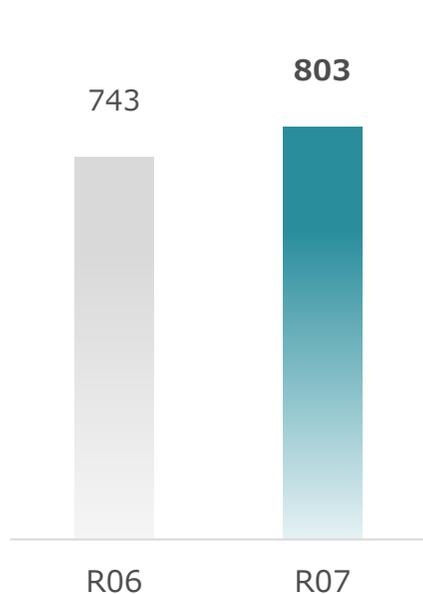
### ヘルスケア事業

- ▶ OEM化粧品の販売は伸長したが、主力商品であるフタアミンクリームは猛暑の影響で販売は低調

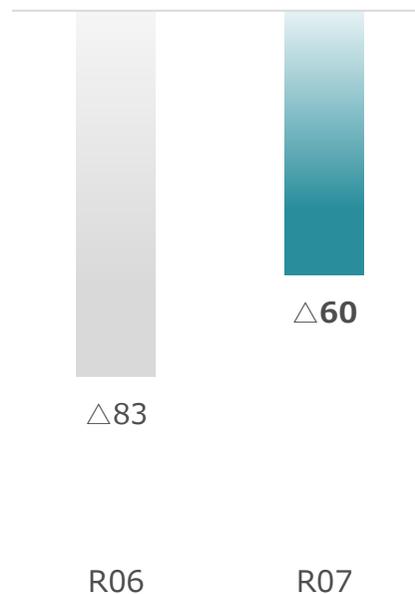
### 洋菓子店の運営事業

- ▶ ほぼ前年並みで推移

売上高



営業利益

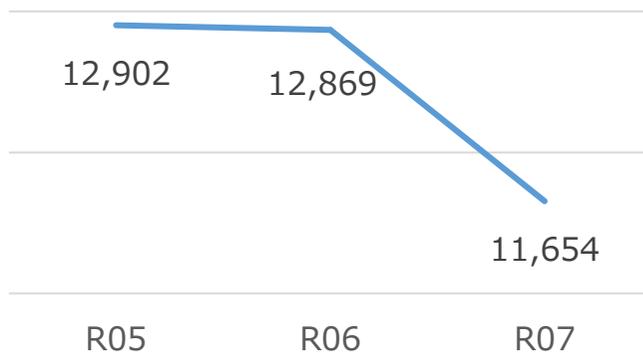


## 令和7年12月期 通期業績 財務主要指標

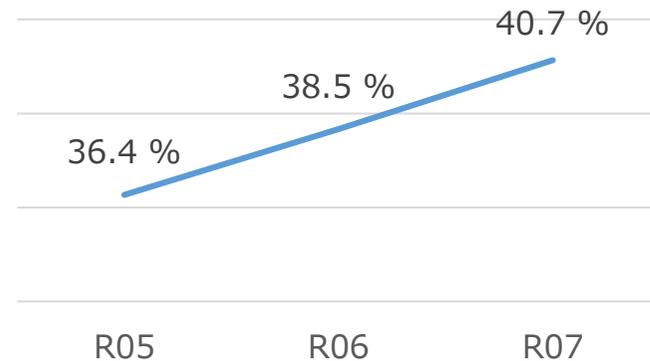
(単位：百万円)

	令和5年12月期 実績	令和6年12月期 実績	令和7年12月期 実績
総資産	34,455	34,842	34,309
純資産	12,540	13,427	13,975
有利子負債	12,902	12,869	11,654
ネットD/Eレシオ	0.83倍	0.78倍	0.69倍
自己資本比率	36.4%	38.5%	40.7%

有利子負債推移



自己資本比率推移



## 令和7年12月期 通期業績 連結貸借対照表サマリー

(単位：百万円)

	令和6年12月	令和7年12月	増減
流動資産	11,200	10,750	△450
固定資産	23,641	23,558	△82
<b>資産合計</b>	<b>34,842</b>	<b>34,309</b>	<b>△532</b>
流動負債	8,912	7,984	△927
固定負債	12,502	12,349	△153
<b>負債合計</b>	<b>21,415</b>	<b>20,333</b>	<b>△1,081</b>
株主資本	11,753	12,321	+568
その他包括利益累計額	1,665	1,653	△11
非支配株主持分	8	0	△8
<b>純資産合計</b>	<b>13,427</b>	<b>13,975</b>	<b>+548</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>34,842</b>	<b>34,309</b>	<b>△532</b>
自己資本比率	38.5%	40.7%	+2.2pt

## 令和7年12月期 通期業績 連結キャッシュフロー サマリー

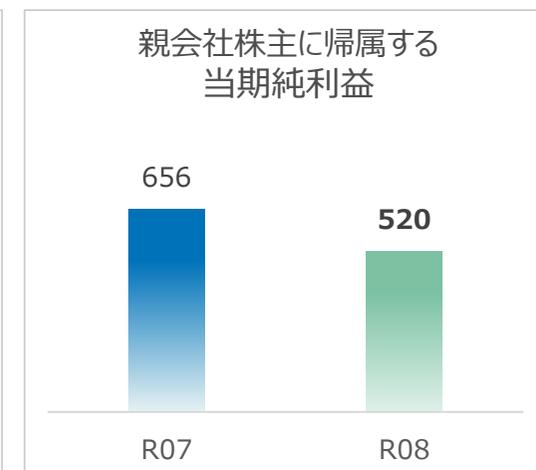
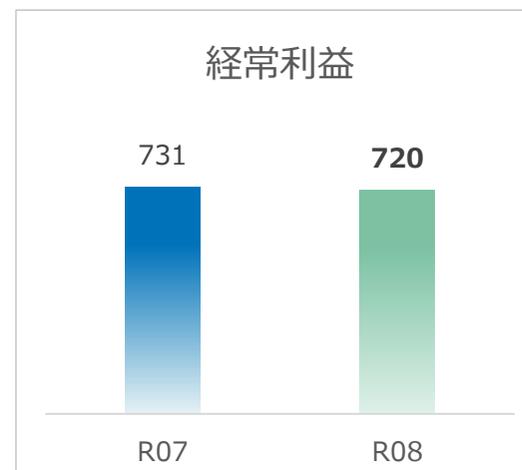
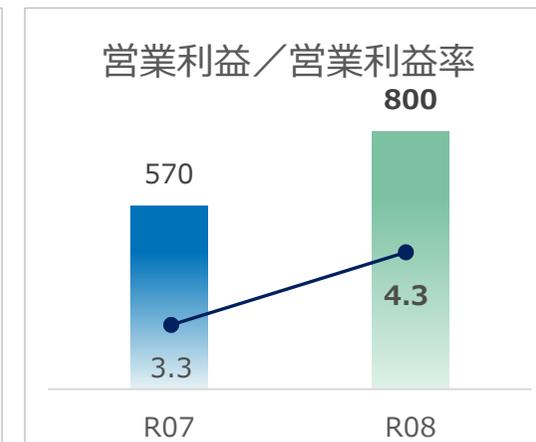
(単位：百万円)

	令和6年12月累計	令和7年12月累計	主な増減要因
純利益	862	1,123	
減価償却費	438	454	
運転資金	△278	241	
その他	△451	△805	
<b>営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>571</b>	<b>1,013</b>	<b>営業キャッシュフロー</b>
設備投資	△422	△340	売上債権の減少 +174百万円
その他	264	413	棚卸資産の減少 +204百万円
<b>投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△157</b>	<b>73</b>	仕入債務の減少 △136百万円
長・短期借入金増減	△26	△1,208	
配当金	△106	△113	
その他	△96	△10	
<b>財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△229</b>	<b>△1,332</b>	<b>投資キャッシュフロー</b>
<b>キャッシュフロー増減</b>	<b>199</b>	<b>△265</b>	投資有価証券の売却による収入 +391百万円
			有形固定資産の取得による支出 △332百万円
			<b>財務キャッシュフロー</b>
			短期借入金の純減額 △680百万円
			長期借入金の純減額 △528百万円

## 令和8年12月期 業績予想概要

(単位：百万円)

	実績	修正計画	前年同期比 増減率
	令和7年 12月期	令和8年 12月期	
売上高	17,471	<b>18,500</b>	+5.9%
営業利益	570	<b>800</b>	+40.3%
営業利益率	3.3%	<b>4.3%</b>	+1.0pt
経常利益	731	<b>720</b>	△1.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	656	<b>520</b>	△20.8%



各事業の環境、業績動向を踏まえ、中期経営計画の目標数値を修正。  
各事業で施策を着実に実施し、前年同期比で売上高、営業利益の増収増益を目指す。  
※詳細は「中期経営計画の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 令和8年12月期 セグメント別業績予想

(単位：百万円)

	実績			業績予想			前年同期比 増減		
	令和7年12月期			令和8年12月期					
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
衣料事業	5,935	257	4.3%	6,830	260	3.8%	+894	+2	△0.5pt
インテリア 産業資材事業	7,234	103	1.4%	6,920	290	4.2%	△314	+186	+2.8pt
エレクトロ ニクス事業	1,076	△14	—	1,500	15	1.0%	+423	+29	—
ファイン ケミカル事業	1,525	125	8.2%	1,430	120	8.4%	△95	△5	+0.2pt
不動産事業	896	512	57.2%	910	515	56.6%	+13	+2	△0.6pt
その他の事業	803	△60	—	910	10	1.1%	+106	+70	—
調整額 (販管費等)	—	△354	—	—	△410	—	—	△55	—
合計	17,471	570	3.3%	18,500	800	4.3%	+1,028	+229	+1.0pt

## 令和8年12月期 セグメント別業績予想 前年同期比 増減要因

	前年同期比	主な増減要因
衣料事業	売上高 +894 百万円 ▲ 営業利益 +2 百万円 ▲	▶ 新開発商品と海外生産拠点活用による新規案件の獲得 ▶ 加工賃等のコスト上昇により収益性が低下の傾向
インテリア 産業資材事業	売上高 △314 百万円 ▼ 営業利益 +186 百万円 ▲	▶ 需要が旺盛な分野に生産性向上で対応 ▶ 中国現地法人の持分譲渡により売上高は減少するが利益は改善
エレクトロニクス 事業	売上高 +423 百万円 ▲ 営業利益 +29 百万円 ▲	▶ 成長分野（車載用電子部品、偏光レンズフィルム等）の販売強化 ▶ 新規分野の拡充
ファインケミカル 事業	売上高 △95 百万円 ▼ 営業利益 △5 百万円 ▼	▶ 電子材料分野の受注は堅調だが、前年比では鈍化 ▶ 独自技術による開発商材の拡充で前年並みの利益を確保
不動産事業	売上高 +13 百万円 ▲ 営業利益 +2 百万円 ▲	▶ テナントの一部が退去していた影響は解消のため、収益力は安定
その他の事業	売上高 +106 百万円 ▲ 営業利益 +70 百万円 ▲	▶ ヘルスケア事業は新規取り組みにより販売強化 ▶ アグリビジネス事業は販売を本格的に開始
調整額 (販管費等)	売上高 — 営業利益 △55 百万円 ▼	▶ 一般管理費の増加
合計	売上高 +1,028 百万円 ▲ 営業利益 +229 百万円 ▲	▶ 前年、業績低調の事業が各施策を実施、新規案件獲得により、全体の収益性を底上げ ▶ インテリア産業資材、ファインケミカル事業で生産性強化を実施、収益を確保

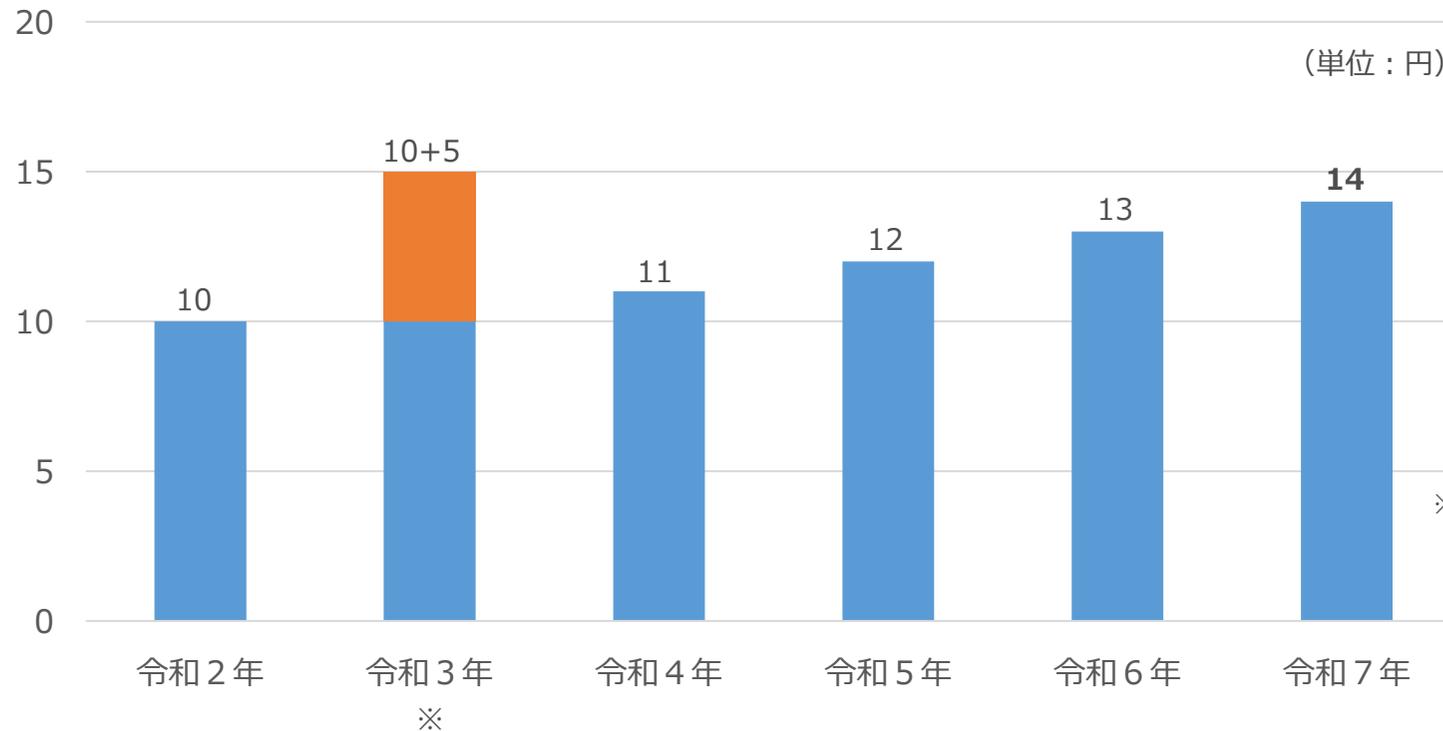
# 株主還元

## 基本方針

成長投資、財務状況とキャッシュフローなどのバランスを総合的に勘案し、  
安定的かつ継続的な利益還元を実施

## 1株あたり配当

令和7年12月期は、**中期経営計画通り1株あたり14円**の普通配当を予定



## 株主優待制度

## 目的

株主の皆様の日頃のご支援とご愛顧に感謝するとともに、制度を通じて当社グループに対するご理解をより深めていただき、より多くの皆様に中長期的に当社株式を所有していただくため

対象となる  
株主様

毎年12月31日時点で、同一の株主番号で当社株主名簿に1年以上継続して記載または記録されている当社株式1,000株（10単元）以上を保有されている株主様

## 実施時期

令和8年4月頃に、対象となる株主様に「株主優待のご案内」を発送予定

## 内容

当社オリジナルカタログに掲載の当社グループ商品（5,000～15,000円相当）  
またはグルメ商品（3,000円相当）からいずれか1点の優待品を贈呈

《ご参考》商品一例

## 当社商品

ヘルスケア商品（12,000～15,000円相当）



## 当社商品

焼き菓子詰め合わせ等（5,000～6,000円相当）



4,000円分  
クーポン

※その他詳細は当社コーポレートサイト内 IR News (<https://www.toabo.co.jp/ir/release/>) をご覧ください。

## 循環型経済（Circular Economy）への貢献

### 炭素繊維のリサイクル

炭素繊維（以下、CF）のリサイクルに関して、リサイクラーにて取り出されたCFは、ペレットや不織布等の原料利用など、軽量部材としての限定的な利用にとどまっております。取り出された「CFの利用」が課題となっております。そこで、岐阜大学、三重工業研究所と成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）として、回収されたCFから疑似連続繊維化技術を開発して、再び炭素繊維強化プラスチックの原料となる部材を提供すべく共同研究を行っております。

昨年度は連続繊維化技術研究により紡績糸の作成、今年度は連続繊維化された材料を用いて、テープ開発を進めております。テープを連続的に一貫工程で作製できる装置はほぼ完成し、次の段階では顧客より要望の多かった50cmの広幅に対応すべく、装置の工夫を検討しております。また、テープ材の耐熱性を向上させるため、PP以外の熱可塑性繊維の選定も検討しております。



#### 国内CF取出し事業者（リサイクラー）

供給 ↓



#### 紡績からのアプローチ



#### 不織布からのアプローチ



# トーア紡グループのSDGs

## 環境配慮の仕組みづくり

GREEN WOOL

VALUE CHAIN

～CSR、環境負荷低減と経済性の実現～

TOABO SOTOH

ケケン  
ケケン試験認証センター



### 尾州発の新たな環境基準の確立を目指して

東亜紡織株式会社と株式会社ソトーは、ケケン試験認証センターの協力のもと、SDGsの達成に向けて『GREENWOOLバリューチェーン』を立ち上げ、『CSR、環境負荷低減と経済性の実現』をミッションとして、羊毛業界のグローバルスタンダードを目指し、構築・運用を進めております。

現在、尾州の協力工場を中心に加盟が進んでおり、CSRの評価の実施や各サプライチェーンの使用エネルギーなどをモニタリングし、CO<sub>2</sub>、産業廃棄物排出量の削減に取り組んでおります。

### 2025年度取り組み状況

- ▶ CO<sub>2</sub>排出量を中心に環境負荷INDEXを作成中
- ▶ ブランド化の推進中  
(アパレルへの提案を実施中)
- ▶ 環境配慮取り組みアイコンを作成
- ▶ ウールリサイクル商品の開発を推進



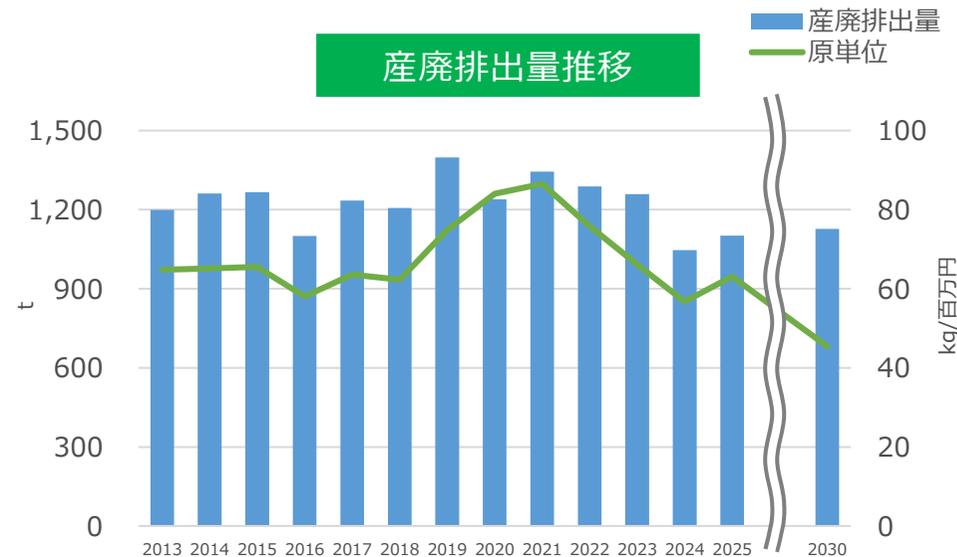
# トーア紡グループのSDGs

## 2030年に向けての目標

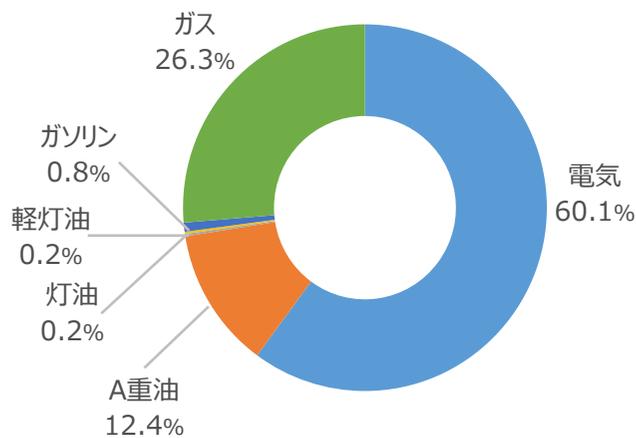
CO<sub>2</sub>排出量推移



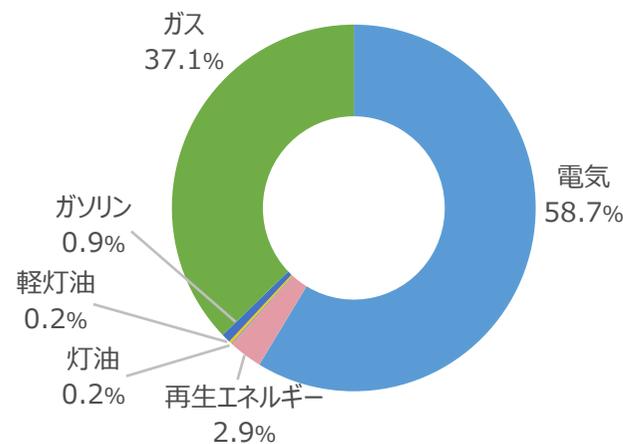
産廃排出量推移



2025年 エネルギー使用比率



2030年 エネルギー使用比率 (目標)



省エネタイプ設備への移行、  
設備運転効率化 (ボイラー運転制御等) による削減を実施

## トピックス

**TOABO**

### 職場環境改善

#### トイレの改修

三重県のトア紡マテリアル株式会社四日市工場では、衛生環境の向上を目的として、老朽化したトイレの改修工事を実施しました。同工場ではインフラ整備に注力しており、これまでも燃料転換に伴う旧ボイラー施設及び煙突の撤去、ボイラーの新設、遠隔操作システムの導入など、ユーティリティ設備の改善を推進してきました。今回、約半年間にわたる工事を経て、計4か所のトイレがリニューアルされました。



#### 新福利厚生棟 竣工

山口県の大阪新薬株式会社では、従業員一人一人が安全で働きやすい職場環境を整え、さらなるエンゲージメント向上を図るため、より快適な休憩談話室、女子更衣室、食堂を刷新した「新福利厚生棟」を竣工しました。トア紡グループのビジョンを実現するため、よりクリエイティブな挑戦ができる人材の育成・確保に努めてまいります。

# トピックス

**TOABO**

## 化粧品OEM事業

### 「TOANN」開発事例

ヘルスケア事業の一環で、株式会社トア紡コーポレーションが製造販売元となり、得意先様のオリジナル化粧品を手掛けております。



その代表例として、MNインターファッション株式会社様のスキンケアブランド「TOANN（トアン）」の「TOANN ブースター クリームクレンジング」、「TOANN ファースト リポセラム（導入美容液）」の製品開発と製造を行いました。

発売から約6か月ですが、高いリピート率で多くのお客様からご好評をいただいております。



---

本資料中の業績予想、見通し及び事業計画に関する記述等は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

本資料・データの無断転用はご遠慮ください。

---